



# 保存活用工事について

## 概要

旧奏楽堂の文化財的価値を保存し後世へ継承するとともに、今後も「生きた文化財」として活用を継続するために、保存活用工事を行いました。保存活用工事は主に右記4種類の工事に分類されます。



## 保存活用工事のみどころ

### 1 耐震補強工事

利用者の安全を確保する上で必要な耐震性能を満たすために、主として外壁の内部へ補強壁を設置しました。また、大地震時における天井仕上げ材の損傷及び落下に対して、より安全性を高めるために、天井材の下地及び小屋組内にも補強を施しています。

#### ～外壁補強の例～



- ① 外壁の解体は手作業で行い、当て木をしながら1枚1枚丁寧に取り外しました。
- ② 取り外した外壁材は同じ位置に復旧する必要があるため、あらかじめ約1万枚の木材の一つひとつに木札で番号を付け、建物内に整理して保管しました。
- ③ 壁内部に補強用合板を張ったところ。この後、外壁材も元の位置に復旧しています。また、外壁の塗装は昭和62年の移築・復原時の調査結果に基づき、塗装を施しました。

#### ～天井補強の例～



耐震性を高めるため鉄筋ブレースを設置した。



吊木を追加し、さらに振れ止め用の斜材を取り付けた。

## 2 保存修理工事

主に経年による劣化・破損に対する修理として、外壁塗装や屋根漆喰の塗り直し、外部木部の腐朽箇所や硬化した窓ガラスのパテ補修などを行っています。

～正面玄関ポーチの例～



- ①正面玄関ポーチの雨腐れによる破損状況。
- ②補修用の新しい材料を加工しているところ。
- ③破損していた部分を新しい材料で継いだところ。文化財の工事では、可能な限り既存の材料を活用しながら工事を進めます。この後、元の形状通りに復旧しています。

～その他の例～



- ④屋根目地漆喰の塗り直しの様子
- ⑤建具の補修の様子  
(木枠のうち、破損していた箇所のみ新しい木材で補修した)

## 3 整備活用工事

本工事後も「生きた文化財」として音楽ホール及び展示・見学施設活用を継続するために、文化財的価値を維持・継承していくことを前提に、利便性を向上させるような工事も行っています。



- ⑥ホール客席のサイズが大きくなり、快適にご利用いただけます。
- ⑦外部からの騒音を遮音するため、ホール客席側に防音窓を設置しました。
- ⑧これまでは出演者用のトイレがなかったため、楽屋控室に出演者用のトイレを設置しました。

## 4 設備工事

セキュリティ機能の向上や老朽化した設備機器を更新する工事を実施しました。



- ⑨放水銃、屋外消火栓の設置写真
- ⑩防犯カメラ(写真下)及び炎センサー(写真上)の設置写真  
防犯カメラは屋外に12台・屋内に9台、炎センサーは屋外に10台新設しました。